

がん登録実務者研修会 in 米子

がん登録担当者研修会報告

ITO Hidemi
伊藤 秀美愛知県がんセンター
JACR 理事 / 教育研修委員会 委員長

「第35回日本がん登録協議会学術集会」が米子市で開催され、学術集会初日の午後に「がん登録実務者研修会」が行われ、約150人が現地参加しました。テーマは「がん登録の精度向上に直結する診断理解と多重がん判定—診断情報と多重がん判定ルールの読み解き方—」で、寺本典弘先生(四国がんセンター)と私が座長を務めました。日々の実務で迷いやすい診断情報の読み解きから多重がんの判定まで、明日からの業務に役立つ内容を学びました。

小塚祐司先生(三重大学医学部附属病院)は、病理診断が生検、手術材料、免疫染色、遺伝子検査などを経て段階的に精緻化されることを示し、複数施設の診断情報に差が生じる背景と、集約時に情報を整理・判断する考え方を解説されました。海崎泰治先生(福井県立病院)は、病理診断は肉眼所見から始まることを強調し、胃、肺、乳腺を例に、肉眼像と組織像、病期分類の関係を分かりやすく説明されました。

柴田亜希子先生(山形県立中央病院)は、画像診断が、がんの発見、進行度評価、経過観察などに果たす役割を紹介し、検査目的や診断の確実性、病期分類の版を確認し、必要に応じて診療録をたどるという、報告書を読む際の実践的なポイントを症例とともに示されました。中林愛恵先生(国立がん研究センター)は、肺がんや膀胱がんの事例を交え、院内がん登録のSEER 2026年版と全国がん登録のIARC/IACRによる多重がん判定の違いを解説し、ルールにより登録されるがんの数が異なるため、各登録で正しいルールを用いる重要性を示されました。

講義と豊富な症例解説を通じ、診断情報の背景を理解して根拠を確かめ、登録目的に応じたルールを適切に用いることが、がん登録の精度と比較可能性を支えることを改めて学ぶ研修会となりました。ご講演いただいた皆様に感謝申し上げますとともに、本研修会の学びが各施設・地域での登録実務に活かされることを期待します。

実務でGo!

MATSUMOTO Yoshifumi
松本 吉史

大阪医科薬科大学病院



日本がん登録協議会(JACR)第35回学術集会米子大会のプログラムの一環として、学術集会1日目にJACR教育研修委員会企画「がん登録実務者情報交換会 実務でGo!」を開催いたしました。

今回は、①登録業務(Case Finding、集約など)、②情報利用(統計解析・報告書作成)、③運営(人材育成、研修会運営など)をテーマに、約80分間にわたり参加者同士で活発な情報交換を行いました。

当日は、日頃の業務に関する悩みや課題について気軽に相談できる和やかな雰囲気の中で交流が行われ、「他施設との交流ができてよかった」「情報交換の場として有意義だった」など、多くの声が

寄せられました。

アンケートでは、参加者の約9割から「満足」および「今後も参加したい」との回答をいただきました。また、今後取り上げてほしいテーマとして、①人材育成・研修会運営、②登録業務、③情報利用の順に希望が多くみられました。

「実務でGo!」は2021年の東京開催からこれまでに6回開催し、延べ約400名の皆さまにご参加いただいております。今後も、皆さまからいただいたご意見をもとにテーマや運営方法を工夫し、日頃の悩みを相談しながら気軽に情報交換できる場として継続していきたいと考えています。今後とも、多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

